
ドーサツリョク

茄子野郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドーサツリヨク

【Nコード】

N66710

【作者名】

茄子野郎

【あらすじ】

人間観察をしている小学3年生の男の子。

目の見えないおばあさんの洞察力にあこがれる本当の理由とは…

僕は小学校3年生の男の子。

ちよつと怖がりの僕だけれど将来の夢は立派な刑事さんになること。

刑事さんになって悪いやつを捕まえたい。

でも悪いやつを捕まえるにはカンが鋭くなくちゃいけないし、ド
ーサツリヨクとか

カンサツガンもなくちゃいけない。どこに悪いやつがいるか分からないからね。

そこで僕は夕方になるといつも人通りの多いこの交差点で
毎日ニンゲンカンサツをしているのだ。

怪しいやつがいたら僕が真っ先に捕まえてやるんだ。

夕方、いつものようにニンゲンカンサツをしていると、

サングラスをつけて地面に白い杖をコツコツと当てながら

ゆっくりと歩いているおばあさんを見つけた。

どうやらおばあさんは目が見えないみたいだ。あ、あぶない。

そのまま歩くと止まっているバイクにぶつかる。ところが寸前の
ところでおばあさんは止まった。

すごい…どうしてわかるんだ。目が見えないのに。

はっとしているのもつかの間、今度はマウンテンバイクにまたが
ったオジサンが

かなりのスピードでおばあさんに向かって走ってきた。

今度も避けてしまうのかな… ところが今度は物凄い勢いで二人
はぶつかった。

「いっぴいっぴい…」

「あいたた…す、すみません…だ、大丈夫でしたか？」

オジサンはようやくおばあさんが目の見えないことに気付いたみたいだった。

「も、申し訳ありませんっ…」

「いいんじゃないよ…ちよつと生まれてこの方目が見えんもので。それよりあんた

いい歳してマウンテンバイクって もうちよつと歳相応なチャリンコないんかい…」

オジサンはちよつと怒ったようにさっさと行ってしまった。

大丈夫かな…僕は心配になって、おばあさんに恐る恐る近づいてみた。

おばあさんの後ろから近づいてみた次の瞬間

「ボク、こんなところで道草食ってなにしてるんだい、こんな時間まで。」

もうとっくに帰る時間じゃないのかい？」

おばあさんがこちらを向いて話しかけてきた。

僕はビツクリしてその場から走って逃げた。どうして！？目が見えないんじゃないの！？

しかも僕うしろからまわったじゃん！

しばらく経って恐る恐るおばあさんのいるところをもう一度見に行っただけ

おばあさんはもういなかった。

な、何だったんだらうあのおばあさん…気味が悪いな…

どうしておばあさんはオジサンが乗ってた自転車か

マウンテンバイクだって分かったんだ？見える見えない以前にそもそもマウンテンバイクがどんなものか知らないはずじゃないか？

おばあさんは生まれてからずっと目が見えないんだから。

あのおばあさんちよつと変だぞ…

そついえば目の見えない人は目が見えない分
鼻とか耳とかが物凄く発達しているって聞いたことがあるな。

あ、たぶんマウンテンバイクに以前触った事があるんだ
それであの瞬間に分かったんだ、きつと。

そつに違いない。僕の刑事のカンってやつさ。
でも感触だけで分かるなんて…僕にはたぶん無理。

それに僕後ろから近づいたのに気付くんだもの。
後ろから近づいたら普通は気付かないよ。

前から近づいてもあんまり気付かないかもしれないけどね、目も
みえないし。

やつぱりあのおばあさん、タダモノじゃない。普通じゃないよ…

でもいいなあ。あのドーサツリヨク。

僕にもあのくらいのドーサツリヨクがあれば早く悪いやつ捕まえ
られるようになるのに。

この世のものとは思えないよね、ほんと化け物みたいだ…

まずいぞちよつとこわくなってきた… ど、ドキョウもつけなく
つちやだめだ…

まだまだ僕も刑事さんとしての修行が足りないってことだね。

もっとがんばるつと。さてニンゲンカンサツに戻りますかっ。

あーあ、早くつかまえてみたいなあ。この交差点で僕コロシタや
つ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6671o/>

ドーサツリョク

2011年10月8日03時40分発行